標　　準　　様　　式

目　　次

１．精度管理表

【基準点測量】

様式第１―１　基準点測量精度管理表　その１
様式第１―１―１　基準点測量精度管理表　その１―２
様式第１―１―２　基準点測量精度管理表　その１―３
様式第１―２　基準点測量精度管理表　その２
様式第１―２―１　基準点測量精度管理表　その２―２
様式第１―２―２　基準点測量精度管理表　その２―３
様式第１―３　水準測量精度管理表
様式第１―４　ＧＮＳＳ標高測量精度管理表

【地形測量及び写真測量】

様式第１―５　標定点設置精度管理表
様式第１―６　簡易水準測量精度管理表
様式第１―７　ＵＡＶ撮影コース別精度管理表（数値地形図作成）
様式第１―８　空中三角測量精度管理表（数値地形図作成）
様式第１―９　対空標識設置精度管理表
様式第１―１０　残存縦視差の測定
様式第１―１１　撮影コース別精度管理表（空中写真の数値化）
様式第１―１１―１　撮影ロール別精度管理表（空中写真の数値化）
様式第１―１２　デジタル航空カメラ撮影コース別精度管理表
様式第１―１３　ＧＮＳＳ／ＩＭU解析結果精度管理表①（空中写真撮影）
様式第１―１３―１　ＧＮＳＳ／ＩＭU解析結果精度管理表②（空中写真撮影）
様式第１―１４　同時調整精度管理表
様式第１―１５　細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集・補測編集・数値地形図データ作成精度管理表
様式第１―１６　数値図化精度管理表
様式第１―１７　数値地形図データファイル精度管理表
様式第１―１８　写真地図作成精度管理表

【三次元点群測量】

様式第１―１９　平面直角座標系への変換 精度管理表
様式第１―２０　ＵＡＶ撮影コース別精度管理表（三次元点群作成）
様式第１―２１　三次元形状復元精度管理表（三次元点群作成）
様式第１―２２　コース間点検精度管理表
様式第１―２３　調整点点検精度管理表（標高・水平位置）
様式第１―２４　点密度点検精度管理表
様式第１―２５　点検測量結果精度管理表（検証点 標高・水平位置）
様式第１―２５―１　点検測量結果精度管理表（再計測）
様式第１―２５―２　点検測量結果精度管理表（横断測量）
様式第１―２６　解析結果 精度管理表①（車載写真レーザ測量）
様式第１―２６―１　解析結果 精度管理表②（車載写真レーザ測量）

様式第１―２７　調整点設置（単点観測法）精度管理表
様式第１―２８　調整処理 精度管理表（点群データ補正）
様式第１―２９　図化用データ点検 精度管理表
様式第１―３０　合成結果 精度管理表
様式第１―３１　ＧＮＳＳ／ＩＭＵ解析結果精度管理表①（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量／ＵＡＶレーザ測量）
様式第１―３１―１　ＧＮＳＳ／ＩＭＵ解析結果精度管理表②（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量／ＵＡＶレーザ測量）
様式第１―３２　グラウンドデータ作成作業精度管理表
様式第１―３３　グリッドデータ作成作業精度管理表
様式第１―３４　三次元点群データファイル精度管理表
様式第１―３５　断面図データ作成作業精度管理表

【応用測量】
様式第１―３６　条件点測量精度管理表
様式第１―３７　ＩＰの設置測量精度管理表
様式第１―３８　中心線測量精度管理表
様式第１―３９　縦断測量精度管理表
様式第１―４０　横断測量精度管理表
様式第１―４１　用地幅杭設置測量精度管理表
様式第１―４２　境界点間測量精度管理表
様式第１―４３　用地実測図データファイルの作成精度管理表
様式第１―４４　用地平面図データファイルの作成精度管理表

２．品質評価表

様式第２―１　品質評価表　総括表
様式第２―２　品質評価表　個別表

３．成果等

【基準点測量】
様式第３―１　基準点成果表　その１
様式第３―２　基準点成果表　その２
様式第３―３　点の記
様式第３―４　水準測量観測成果表
様式第３―５　地盤沈下調査水準測量成果表（変動計算簿）
様式第３―６　水準点の記
様式第３―７　成果数値データファイル標準様式
様式第３―８　基準点現況調査報告書
様式第３―９　測量標設置位置通知書
様式第３―１０　測量標新旧位置明細書

【地形測量及び写真測量】
様式第３―１１　標定点成果表
様式第３―１２　標定点明細表

様式第３―１３　カメラキャリブレーション実施記録簿（数値地形図作成）
様式第３―１４　対空標識点明細表
様式第３―１５　デジタル航空カメラ撮影記録簿
様式第３―１６　デジタル航空カメラ撮影諸元
様式第３―１７　固定局観測記録簿
様式第３―１８　空中写真数値化　作業記録簿・点検記録簿

【三次元点群測量】
様式第３―１９　標定点・地上レーザスキャナ配置図
様式第３―２０　キャリブレーション記録簿（ＵＡＶレーザシステム点検記録）
様式第３―２１　ＵＡＶレーザシステム精度試験記録簿
様式第３―２２　飛行・計測諸元計画表
様式第３―２３　調整点・検証点・コース間点検箇所　配点図
様式第３―２４　ＵＡＶレーザ計測記録簿
様式第３―２５　オリジナルデータ均一度点検表
様式第３―２６　キャリブレーション記録簿（車載写真レーザシステム）
様式第３―２７　調整点・検証点　明細表（車載写真レーザ測量）
様式第３―２８　移動取得計画図
様式第３―２８―１　移動取得実績図／移動取得実績表
様式第３―２９　キャリブレーション記録簿（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量）
様式第３―３０　航空レーザ測量システム点検記録簿
様式第３―３１　航空レーザ測深システム点検記録簿
様式第３―３２　固定局明細表
様式第３―３３　航空レーザ計測記録簿／航空レーザ測深記録簿
様式第３―３４　調整点・検証点 明細表（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量／ＵＡＶレーザ測量）
様式第３―３５　点群データ点検表
様式第３―３６　調整点調査表
様式第３―３７　欠測率調査表（陸部／水部）
様式第３―３８　調整点残差表
様式第３―３９　既存データ検証結果表
様式第３―４０　水質調査記録簿

【応用測量】
様式第３―４１　縦断測量成果表
様式第３―４２　点の記
様式第３―４３　土地境界確認書
様式第３―４４　土地調査表
様式第３―４５　建物の登記記録等調査表
様式第３―４６　権利者調査表

４．建標承諾書

様式第４―１　建標承諾書（基準点）
様式第４―２　建標承諾書（水準点）

５．成果品要求仕様書及び成果品作業仕様書

様式第５―１　成果品要求仕様書（ＵＡＶレーザ測量）
様式第５―２　成果品作業仕様書（ＵＡＶレーザ測量）
様式第５―３　成果品要求仕様書（車載写真レーザ測量）
様式第５―４　成果品作業仕様書（車載写真レーザ測量）

６．標準様式の記載における注意事項

標準様式の記載における注意事項

１．精　度　管　理　表

基準点測量

様式第１－１

基準点測量精度管理表　　その１

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算				摘要
					水平位置		標高				単位重量の標準偏差	許容範囲	高低角の標準偏差	許容範囲	
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲							
										再測率					

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式
特記事項		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１－１

基準点測量精度管理表　　その１－２

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算					摘要
					水平位置		標高				新点位置の標準偏差（m）					
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲			点番号	水平	許容範囲	標高	許容範囲	

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式
特記事項		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１－２

基準点測量精度管理表　　その１－３

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算					摘要
					水平位置		標高				新点位置の標準偏差（m）					
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲			点番号	水平	許容範囲	標高	許容範囲	

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

簡易網平均計算						
各路線の残差						
路線番号	方向角（″）	許容範囲（″）	座標差（cm）	許容範囲（cm）	高低差（cm）	許容範囲（cm）

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２

基準点測量精度管理表　　その２

作　業　名		地　区　名		計画機関名		作業機関名		点　検　者	
目　　的		期　　間		作　業　量		主任技術者			

基　線　解　析　辺			仮　定　三　次　元　網　平　均						三次元網平均計算	
測　点　名		辺　長（斜距離）	ΔX 又は方位角		ΔY 又は斜距離		ΔZ 又は楕円体比高		斜距離の残差	
自：	至：		残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲

主要機器名称及び番号

永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式

特　記　事　項

新点位置の標準偏差				
新点名	水平位置		標　高	
	標準偏差	許容範囲	標準偏差	許容範囲

点　検　測　量					
測　点　名		セッション番号		較　差（ΔN, ΔE, ΔU）	許容範囲
自：	至：	点検値（ΔX, ΔY, ΔZ）	採用値（ΔX, ΔY, ΔZ）		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２―１

基準点測量精度管理表　　その２―２

作　業　名		地　区　名		計画機関名		作業機関名		点　検　者	
目　　的		期　　間		作　業　量		主任技術者			

基　線　解　析　辺			電子基準点間の閉合差						三次元網平均計算	
測　点　名		辺　長（斜距離）	ΔN		ΔE		ΔU		斜距離の残差	
自：	至：		閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲	残差	許容範囲

主要機器名称及び番号

永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式

特　記　事　項

新点位置の標準偏差				
新点名	水平位置		標　高	
	標準偏差	許容範囲	標準偏差	許容範囲

点　検　測　量					
測　点　名		セッション番号		較　差（ΔN, ΔE, ΔU）	許容範囲
自：	至：	点検値（ΔX, ΔY, ΔZ）	採用値（ΔX, ΔY, ΔZ）		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２―２

基準点測量精度管理表　　その２―３

作　業　名 地　区　名		期　　間		計画機関名		主任技術者	
目　　的		作業量		作業機関名		点　検　者	

測　点　名	点　　検　　計　　算					
	ΔN		ΔE		ΔU	
	閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３

水準測量精度管理表

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

環番号	距離	閉合差	許容範囲	観測者	距離	鎖部数	観測者毎標準偏差	正の回数	負の回数	零の回数	正の総和	負の総和	摘要	特記事項
			往復差から求めた全線の１㎞当たりの標準偏差							単位重量当たりの観測の標準偏差				

主要機器名称及び番号	観測路線図	再測率				
		点検測量				
		区間	距離	点検値	採用値	較差
永久標識種別等						

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－４

ＧＮＳＳ標高測量精度管理表

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目　的		期　間		作　業　量		主任技術者			

基線解析辺		前後半の基線ベクトルの較差			三次元網平均計算	特記事項	主要機器名称及び番号
測点番号及び測点名		ΔN (m)	ΔE (m)	ΔU (m)	斜距離の残差(m)		
自	至	許　容　範　囲					

既知点の楕円体高の閉合差				点　検　測　量						永久標識種別等		
測点名		楕円体高		測点名		点検値	採用値	較　差	較　差	種別	数量	埋設法
自	至	閉合差	許容範囲	自	至			ΔX, ΔY, ΔZ	ΔN, ΔE, ΔU			
										特記事項		

用紙の大きさはＡ４判とする。

地形測量及び写真測量

様式第１－５

標定点設置精度管理表

地　区　名	作　業　量	作業機関名	主任技術者	点　検　者

点　　名	測量方式	平　均　法	座標較差（最大）		高低の標準偏差又は較差（最大）	内角の閉合差 方向角の較差（最大）
			X	Y		
			m	m	m	

使　用　機　械		備　考	

注１．測量方式は、結合多角、単路線、放射法等を記入する。放射法の場合は、「座標較差」には２回観測の較差を記入し、「平均法」及び「内角の閉合差　方向角の較差（最大）」の欄を斜線抹消する。

２．平均法は、厳密水平(高低)網、簡易水平(高低)網又は三次元網平均等を記載する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－６

簡易水準測量精度管理表

作業名又は 地　区　名	作　業　量	作 業 機 関 名	主任技術者	点　検　者
	点			

路線番号	距　離	閉合差の 許容範囲	閉合差	路線番号	距　離	閉合差の 許容範囲	閉合差
	km	mm	mm		km	mm	mm

使 用 機 器		備 考	

注１．閉合差の制限は、50 mm $\sqrt{S}$（既知点から既知点までの閉合差）、40 mm $\sqrt{S}$（環閉合差）により算出する。

２．Sは観測距離（片道、km単位）とする。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－７

UAV撮影コース別精度管理表（数値地形図作成）

地区名 地方名		カメラ	名称		計画			作業機関名	
			画素数	pixel × pixel	地上画素寸法	基準面高	対地高度		
			センササイズ	mm × mm	cm	m	m	主任技術者	
撮影日時	飛行方向	レンズ	名称						
年 月 日	N		焦点距離					点検者	
h:m	W E	ISO		シャッター速度	カメラキャリブレーション実施年月日				
～		画像記録方式							
風速		データ形式	JPEG形式・RAW形式		年 月 日			社内検査	年 月 日
m/s	S	ビット数	各色 bit		年 月 日			年 月 日	

ファイル名	コース番号	写真番号	採否	コース方向重複度		航跡のずれ	色調の良否	光輝暗影		ボケ・ブレ	ケラレ	スミア	ゴミ	ノイズ	対標明否	隠蔽部の有無	障害事項その他
				最小OL	主点基線長			ハレーション	暗影部								
				%	%	m											
				（最小値）	（最大値）												
平均及集計						（最 大）											

注. ハレーションは、場所の判別（海、川、池、屋根等）を記入する。

コース間重複度

コース番号	写真番号		最小SL（%）
コース間重複度(%)			
コース番号	写真番号		最小SL（%）
コース間重複度(%)			
コース番号	写真番号		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－８

空中三角測量精度管理表（数値地形図作成）

作業名又は地区名	作業量	作業期間	作業機関名	主任技術者	
				点検者	

地上画素寸法	cm
バンドル法	□ セルフキャリブレーション付き誤差モデル
	□ 最適軌跡解析付き

コース番号	撮影高度	写真番号	モデル数	標定点				標定点残差				交会残差	
				使用点数		除外点数		水平位置		標高		RMS誤差	最大
				水平位置	標高	水平位置	標高	RMS誤差	最大	RMS誤差	最大		
	(m)	～						(m)	(m)	(m)	(m)	(mm)	(mm)
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
		～											
制限値（地図情報レベル：　　）													

使用機械		作業者		社内検査期間 人日数		再測率		備考	

注 1.　セルフキャリブレーションおよび最適軌跡解析を使用した場合は□にチェックを入れ、誤差モデルを記入する。
　 2.　パスポイント及びタイポイントの交会残差の単位は、mm 単位で記入する。
　 3.　計算から除外した点がある場合は、備考欄にその理由を明記する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－９

対空標識設置精度管理表

地　区　名	作　業　量	作 業 機 関 名	主任技術者	点　検　者
	点			

明細簿ページ	点　　名	写真番号		型	像の見え	偏心距離	計　算	備　　考
		ｺｰｽ	写真					

磁針定数決定箇所	使用既知点数	定数の決定法	備考	
箇所	点	算出		

注１．数値写真上での対空標識の写りを次の判別記号で表示する。

◎：良く見える　○：なんとか判別できる　⊗　：間接（p_2）表示

２．計算の欄は、再計算の有無等について記入する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１０

残存縦視差の測定（mm）

1 ＋	2 ＋	3 ＋	4 ＋	5 ＋
6 ＋	7 ＋	8 ＋	9 ＋	10 ＋
11 ＋	12 ＋	13 ＋	14 ＋	15 ＋
16 ○＋ 主点	17 ＋	18 ＋	19 ＋	20 ＋○ 主点
21 ＋	22 ＋	23 ＋	24 ＋	25 ＋
26 ＋	27 ＋	28 ＋	29 ＋	30 ＋
31 ＋	32 ＋	33 ＋	34 ＋	35 ＋

注１．残存縦視差の測定位置は、主点基線を軸として密着写真上で横２cm、縦３cm の間隔を標準とする。

２．出力データと対比できるように、測点番号を明記する。また、縦視差が制限を超えた地点は、その大きさを明記する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１１

撮影コース別精度管理表（空中写真の数値化）

地区名 地方名		縮　尺	撮影年月日		作　業 機関名	
コース名			使用スキャナ 装　　置		主　任 技術者	
カメラ名		ロール 番　号	数値化 寸　法		点検者	
飛行方向	→		ビット数		社内検査 年 月 日	年　　月　　日
数値化 月　日	月　　h　m 日　　h　m		データ形式		その他	

写真番号		採否	範囲良否	指標明否	カウンタ番号明否	カメラ情報明否	ゴミ・きず	ボケ・ブレ	色調良否	障害事項その他
カウンタ番号	編集番号									

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１１－１

撮影ロール別精度管理表（空中写真の数値化）

作業名		作業量		作　業 機関名		主任技術者	
地区名						点　検　者	

番号	ロール 番　号	撮影年月日	コース名	写真番号	写真 枚数	最大指標 残差の許容範囲	NG*写真番号	備　考
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				

注．所定内精度基準値：最大値で30μｍ以内
　用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１２

デジタル航空カメラ撮影コース別精度管理表

地区名 地方名			地図情報 レベル	地上 画素寸法	基準面高 地面高	撮影高度	コース間	C — C —	%	作業 機関名	
コース											
カメラ名 焦点距離	mm	計画		cm	m	m	最小重複度	C — C —	%	主任 技術者	
飛行方向	撮影	実施	No.	cm	m	m	統合処理記録				
N W — E S	月 日 h：m ～						統合日	年 月 日		点検者	
			No.	cm	m	m	データ量	GB			
							画像形式				
			差	cm	差	%	ビット数	各色 bit		社内検査 年 月 日	年 月 日
				cm		%	データ形式	非圧縮TIFF形式			

写真番号		採否	実体空白部	コース方向重複度		航跡のずれ	統合処理良否			光輝暗影		スポットシャドー	ボケ・ブレ	ケラレ	雲・雲影・煙・霧	サムネイル画像確認	その他	※障害
No.	編集番号			最小OL	主点基線長		対応点同定精度	原画像情報劣化	色調	ハレーション	暗影部							
				%	%	m												
集計				（最小値） %	（最大値） %	（最大値） %												

※監督所見	
※検査所見	

注１．※印の欄は、計画機関が記入する。
　２．ハレーションは、場所の判別（海、川、池、屋根等）を記入する。
　３．撮影高度は、大きい方の値を　（撮影高度）－（計画撮影高度）＝ 差(m)
　　差 ÷（計画対地高度）＝ ％
　４．飛行方向は矢印と飛行方向角を記入する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１３

ＧＮＳＳ／ＩＭＵ解析結果精度管理表①（空中写真撮影）

作業名又は地区名	撮影年月日		使用カメラ		使用機器		計画機関名		主任技術者	
	撮影縮尺		使用レンズ		使用ソフト		作業機関名		点 検 者	
コース数	機体番号		キネマティック解析						最適軌跡解析	
撮影枚数		使用した固定局	1)	2)	3)	仰角マスク	度	除外された GNSSデータ数		最大連続 除外数

コース番号	撮影高度（m）	写真番号	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均(上段) 最少(下段)	DOPの 平均値(上段)及び 最大値(下段)	往復差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			解の品質基準				位置 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			位置 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			姿勢 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(度)		
						PDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定 フロート解	収束 フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z

作業者		社内検査期間	人日	オフセット・ ボアサイト値	オフセット REF→GNSS	dx=	dy=	dz=	オフセット REF→IMU	dx=	dy=	dz=	ボアサイト REF→IMU	同時調整 Tx=	Ty=	Tz=

注．本様式は、Loosely Coupled方式の場合に適用する。
　　用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１３－１

GNSS／IMU解析結果精度管理表②（空中写真撮影）

作業名又は地区名	撮影年月日		使用カメラ		使用機器		計画機関名		主任技術者	
	撮影縮尺		使用レンズ		使用ソフト		作業機関名		点　検　者	
コース数		機体番号		最適軌跡解析（使用ソフト）					仰角マスク	度
撮影枚数			使用した固定局	1)	2)	3)	4)	5)	6)	

コース番号	撮影高度（m）	写真番号	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均（上段） 最少（下段）	DOPの平均値(上段)及び最大値(下段)	往復差の平均値(上段)及び最大値(下段)(m)			解の品質基準				位置 標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(m)			姿勢 標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(度)		
						PDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z

作業者		社内検査期間	人日	オフセット・ボアサイト値	オフセット REF→GNSS	dx=	dy=	dz=	オフセット REF→IMU	dx=	dy=	dz=	ボアサイト REF→IMU	同時調整 Tx=	Ty=	Tz=

注．本様式は、Tightly Coupled方式の場合に適用する。
　　用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１４

同　時　調　整　精　度　管　理　表

作業名又は地区名	作業量		調整方法	作　業　期　間	作業機関名	主任技術者	
	コース数 写真枚数		バンドル法	自　　年　　月　　日 至　　年　　月　　日		点検者	

コース番号	撮影高度（m）	写真番号	基準点数		計算から除外した点数		検証時の検証点較差 固定点以外全点記載			最終調整時の基準点残差（下段に重量を（）書きする）			タイポイント交会残差（下段に重量を（）書きする）					
													X		Y		XY	
			水平位置（点）	標高（点）	水平位置（点）	標高（点）	点名	水平位置（m）	標高（m）	点名	水平位置（m）	標高（m）	標準偏差（μm）	最大（μm）	標準偏差（μm）	最大（μm）	標準偏差（μm）	最大（μm）
													許容範囲					
										基準点残差 ＲＭＳ誤差（m）								
										許容範囲								
							検証点較差 ＲＭＳ誤差（m）			基準点残差 最大較差（m）								
							許容範囲			許容範囲								
使用機械								作業者					社内検査期間	人日				

注．ＲＭＳ誤差＝$\sqrt{(\sum r^2/n)}$　　ここでr＝残差、n＝点数

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１５

細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集・補測編集・数値地形図データ作成精度管理表

作業名又は地区名	図名又は図面番号	地図情報レベル	作　業　量	作　業　期　間	作業機関名	主 任 技 術 者	点　検　者
				自　年　月　日 至　年　月　日			

項　目		脱落	誤記
境界等(11**)	種類		
	形状		
道　路(210*)	道路記号・道幅		
	形状		
道路施設	橋　(220*)		
	階段･ﾄﾝﾈﾙ　(221*)		
	構造物　(222*)		
	側溝・並木(223*)		
	道路標識等(224*)		
	付属物(22 5*, 6*)		
鉄　道(23**)	記号及び軌道幅		
	形状		
鉄道施設	橋･ﾄﾝﾈﾙ(240*, 1*)		
	雪覆い等　(242*)		
建　物(30**)	種類		
	形状		
建物付属物　(34**)			
建物記号(35**)	種類		
	位置		
公共施設	種類		

項　目		脱落	誤記
公共施設	形状　(41**)		
その他の小物体	記念碑等　(420*)		
	消火栓　(421*)		
	噴水・井戸(422*)		
	ﾀﾝｸ・高塔　(423*)		
	灯台　(424*)		
	観測所　(425*)		
	輸送管　(426*)		
水　部	形状　(51**)		
水部構造物	桟橋　(520*)		
	護岸　(521*)		
	滝・水門　(522*)		
	水制　(523*)		
	流水方向　(524*)		
	距離標　(525*)		
法　面	人工斜面　(610*)		
	被覆　(611*)		
	法面保護　(612*)		
構　囲	柵　(613*)		
	塀　(614*)		

項　目		脱落	誤記
諸　地(621*)	区域界形状		
	記号の種類		
場地622*, 3*	記号の種類		
	記号の位置		
植　生(63**)	植生界等形状		
	植生記号の種類		
等高線(71**)	形状		
	数値		
変形地(72**)	種類		
	形状		
基準点(73**)	位置・種類		
	数値		
注記	行政名		
	居住地名		
	交通施設		
	建物等		
	小物体		
	水部等		
	土地利用		
	地形等		

項　目		脱落	誤記
※整飾等	図名又は図面番号		
	図郭及び方眼寸法		
	座標値等		
	概見図行政区画図		
	方位		
	図歴等		
	その他		
接　合			

注 1. 各工程作業ごとに、該当する項目を選んで図面単位に作成する。該当しない項目欄には斜線で抹消する。
2. 各項目の脱落、誤記等はスクリーンモニタを用いた目視点検結果や点検用出力図による点検結果に基づいて集計し、その個数を記載する。
3. ※印欄は、地形補備測量の場合記載しない。
4. (****)は、取得分類コードを示す。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１６

数 値 図 化 精 度 管 理 表

地　区　名		地図情報レベル		作業期間	自　　年　月　日
図名又は図葉番号		作　業　量			至　　年　月　日

作業機関名	
主任技術者	
点　検　者	

図郭及びモデルの範囲

モデル番号	1	2	3	4	5
図化機名					
作 業 員					

モデル番号	コース番号	写真番号		対地標定記録（上段：基準点、下段：パスポイント等）										標定使用点数 上段：平面 下段：標高	接合の良否 上段：ﾓﾃﾞﾙ間 下段：図郭間
				平面位置の標定残差(m)※		標高の標定残差(m)									
		左	右	許容範囲内	許容範囲を超える	0.1以内	0.2以内	0.3以内	0.5以内	0.7以内	1.0以内	1.5以内	1.5を超える		
1															
2															
3															
4															
5															

モデル番号	図式分類（図化漏れ数、誤コード数）　上段：図化漏れ、下段：誤コード																		
	境界等 (11**)	道路 (21**)	道路施設 (22**)	鉄道 (23**)	鉄道施設 (24**)	建物 (30**)	建物付属物 (34**)	建物記号 (35**)	公共施設 (41**)	その他小物体 (42**)	水部 (51**)	水部構造物 (52**)	法面構囲 (61**)	諸地場地 (62**)	植生 (63**)	等高線 (71**)	変形地 (72**)	基準点 (73**)	注記 (81**)
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			

備　考

注１．※平面位置の標定残差は第１０５条で規定する各地図情報レベルの誤差の許容範囲で判断する。
　２．図葉単位に作成する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１７

数値地形図データファイル精度管理表

作業名又は地区名	図郭名又は図郭識別番号	地図情報レベル	作業量	作業期間	作業機関名	主任技術者	点検者
				自　年　月　日 至　年　月　日			

項目	細目		範囲	論理	目視
ファイル形式	レコード長		ファイルごと		
	文字コード				
	記述書式				
	格納方式				
	ラベル				
レコード間相互関係	ファイル全体		ファイルごと		
	インデックス	図郭レコード			
		要素ヘッダレコード			
		要素レコード			
		グリッドヘッダレコード			
		2･3次元座標レコード			
	図郭	要素数			
		レコード数			
	要素ヘッダ	要　素			
	要素レコード	実データ			
	グリッドヘッダ	グリッド			
レコード間相互関係	インデックスレコード		レコードごと		
	図郭レコード				
	要素ヘッダレコード				
	要素レコード				
	グリッドヘッダレコード				

項目	細目		範囲	論理	目視
レコード記述内容	インデックス	座標系	レコードごと		
		計画機関名			
		図郭識別番号			
		内容記述			
	図郭レコード	図郭名称			
		地図情報レベル			
		タイトル名			
		座標値の単位			
		作成年月			
		現地調査年月			
		入力機器名			
		公共測量承認番号			
		測地成果識別コード			
		図郭識別コード			
		変換手法識別コード			
		作業機関名			
		撮影コース番号			
		撮影年月			
		写真縮尺			
		写真枚数			
		写真番号			
	要素ヘッダ	取得年月			
		数値化区分			
	要素	取得年月			
	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	取得年月			
	注記	文字列の方向			
		字大			

項目	細目		範囲	論理	目視
レコード記述内容	注記	字隔	レコードごと		
		線号			
		注記データ			
	座標	データの重複			
		方向性			
	属　性	属性データ			
	グリッド	方向性			
レコード・区分等	地図分類コード	取得分類	レコード・フラッグごと		
		情報分類			
	レコードタイプ				
	使用データタイプ				
	方向規定区分				
	座標次元区分				
	グループ処理				
	転位処理フラグ				
	間断処理フラグ				
	数値化区分				
	図形区分				
	実データ区分				
	精度区分				
	注記区分				
	転位区分				
	間断区分				
	属性区分				
	縦横区分				

注１．データファイル単位で作成する。
　２．該当しない項目欄は斜線で抹消する。
　３．細目の論理、目視は点検プログラム及び目視による点検結果に基づいて良否を記載する。
　用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－１８

写 真 地 図 作 成 精 度 管 理 表

世界測地系（測地成果○○○○）

作業名		作業機関名		主任技術者		点 検 者	
地区名		図郭名		作業期間	自　　年　　月　　日　～　至　　年　　月　　日		

写真地図データファイル

数値地形モデル

番号	測定値		検測値		残差	番号	平面位置		測定値	検測値	残差
	x	y	X	Y			X	Y	z	Z	
1						1					
2						2					
3						3					
4						4					
5						5					
6						6					
7						7					
8						8					
9						9					
10						10					
11						11					
12						12					
13						13					
14						14					
15						15					
16						16					
17						17					
18						18					
19						19					
20						20					
21						21					
22						22					
23						23					
24						24					
25						25					

色 調	歪 み	写真接合	図郭接合	平均値		許容範囲	地図情報レベル		平均値	
				最大値			水平位置（標準偏差）		最大値	
				標準偏差			標高点（標準偏差）		標準偏差	

注.　点検箇所は 21 点以上とする。

用紙の大きさはＡ４判とする。

三次元点群測量

様式第１－１９

平面直角座標系への変換 精度管理表

作　業　名		レーザスキャナ名		計画機関名		主任技術者	
計測年月日		機　器　番　号		作業機関名		点　検　者	

点　　名	標定点（m）			計測座標（m）			残差（m）			備　　考
	X	Y	Z	X´	Y´	Z´	⊿X	⊿Y	⊿H	
許容範囲										

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２０

UAV撮影コース別精度管理表（三次元点群作成）

地区名 地方名		カメラ	名称		計画			作業機関名	
			画素数	pixel × pixel	地上画素寸法	基準面高	対地高度		
			センササイズ	mm × mm	cm	m	m	主任技術者	
撮影日時	飛行方向	レンズ	名称						
年 月 日	N		焦点距離						
h:m		ISO		シャッター速度	計画OL	%	計画SL	%	点検者	
～	W E	画像記録方式							
風速		データ形式			重複率点検方法			社内検査	年 月 日
m/s	S							年月日	

【画質】

ファイル名	コース番号	写真番号	採否	色調の良否	ハレーション・暗影部	ボケ・ブレ	ゴミ・ノイズ	隠蔽部の有無	対標明否	障害事項 その他

【コース方向重複度(OL率)】

ファイル名	コース番号	写真番号	コース方向重複度	航跡のずれ
			(最小OL) %	(最大値) %

【コース間重複度(SL率)】

コース番号	コース間重複度	コース番号		コース間重複度	コース番号
写真番号		ファイル名	写真番号		写真番号
最小値 (最小SL)	%			%	

注１．OL率及びSL率は、採用した写真のみを用いて計算するものとする。
　２．OL率90%以上かつSL率60%以上で撮影計画を立案した場合は、OL率及びSL率の点検を省略できるものとする。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２１

三次元形状復元精度管理表（三次元点群作成）

作業名又は地区名	調整方法	作業期間	作業機関名	主任技術者	
		自　　年　　月　　日			
		至　　年　　月　　日		点　検　者	

SfMソフト名	計画OL率	計画SL率	作業量	コース数	写真枚数	地上画素寸法	対地高度

標定点の交会残差			
	X	Y	交会残差
最大値			

※単位は、ソフトによる。

検証点の交会残差			
	X	Y	交会残差
最大値			

※単位は、ソフトによる。

備考
（作業範囲において歪みが大きいところ、色調が悪いところなどを書く）

標定点の残差					検証点の較差			
点名	区分	dx	dy	dh	点名	dx	dy	dh
平均値					平均値			
最大値					最大値			

注.　区分には、外部標定点は外、内部標定点は内を表示する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２２

コース間点検精度管理表

世界測地系（測地成果○○○○）

地 区 名		作業機関名			
		作業者		点検者	

点名	X	Y	オリジナルデータの標高(H)		較　差	備　考
			C-	C-	ΔH	

＊電子計算機タイプの場合は、その用紙を使用できる。
但し、上記の内容を満足するものとする。

点数（n）		
平均値（m）		
最大値（m）		
最小値（m）		
RMS誤差（m）$=\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$		

用紙の大きさはＡ４判とする

様式第１ －２３

調整点点検精度管理表（標高・ 水平位置）

世界測地系（測地成果○○○○）

地区名		作業者	
		点検者	

番号	点名	調整点			オリジナルデータ			調整点と三次元計測データの較差			
		水平座標		標高	水平座標		平均標高	水平座標の較差			標高の較差
		X (①)	Y (②)	H (③)	X (④)	Y (⑤)	H (⑥)	ΔX (④-①)	ΔY (⑤-②)	ΔXY	ΔH (⑥-③)
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											

計測範囲全域の差

	データ数	平均値(m)	最大値(m)	最小値(m)	最大値－最小値	ＲＭＳ誤差	備考
Xの差							RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta X)^2}{n}}$
Yの差							RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta Y)^2}{n}}$
XYの差							RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta XY)^2}{n}}$
Hの差							RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$

注．水平座標を対象としない場合には、水平座標の較差の欄に斜線を付すること。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２４

点密度点検精度管理表

地 区 名		作業機関名			
		作業者		点検者	

図名	全格子数	点密度不足格子数	不足格子率%	図名	全格子数	点密度不足格子数	不足格子率%
不足格子率の全域の平均		不足格子率の最小値		不足格子率の最大値			

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１ －２５

点検測量結果精度管理表(検証点　標高・水平位置)

世界測地系（測地成果○○○○）

地区名		作業者	
		点検者	

点検測量手法		要求仕様 制限値	ΔX	ΔY	ΔH

番号	点名	検証点			オリジナルデータ			点検測量結果とオリジナルデータとの較差					
		水平座標		標高	水平座標		平均標高	水平座標の較差				標高の較差	
		X (①)	Y (②)	H (③)	X (④)	Y (⑤)	H (⑥)	ΔX (④-①)	合否	ΔY (⑤-②)	合否	ΔH (⑥-③)	合否
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
較差の平均													
ＲＭＳ誤差													
								RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta X)^2}{n}}$		RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta Y)^2}{n}}$		RMS誤差=$\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$	

注．水平座標を対象としない場合には、水平座標の較差の欄に斜線を付すること。
用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２５－１

点検測量結果精度管理表（再計測）

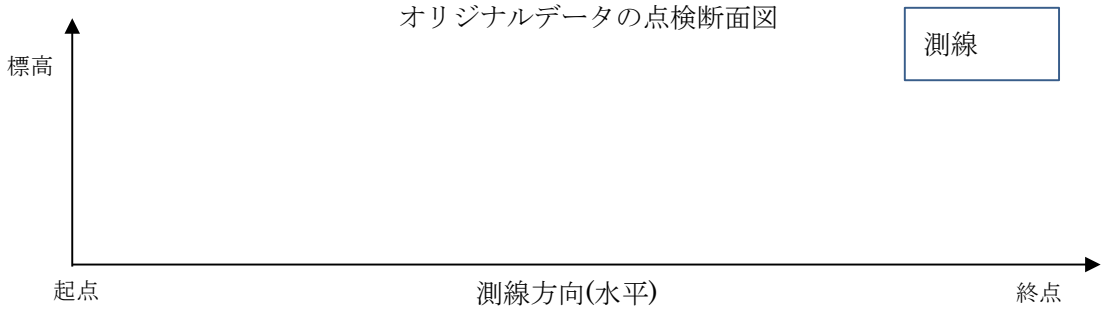
世界測地系（測地成果○○○○）

地区名			作業者		
			点検者		
点検測量手法			要求仕様 制限値	標高（ΔH）	
計測範囲面積 （㎡）		点検測量面積 （㎡）		点検測量率 （%）	

番号	点検箇所名	点検測量結果の 平均標高（h） (①)	オリジナルデータの 平均標高（H） (②)	較差　ΔH (②－①)	合否
1					
2					
3					
4					
5					
6					
較差の平均					
較差のＲＭＳ誤差$=\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$					

注.　点検箇所及び断面箇所は、調整点・検証点・コース間点検箇所配点図に記入する。
用紙の大きさはＡ４判とする。

オリジナルデータの点検断面図



様式第１－２５－２

点検測量結果精度管理表（横断測量）

世界測地系（測地成果○○○○）

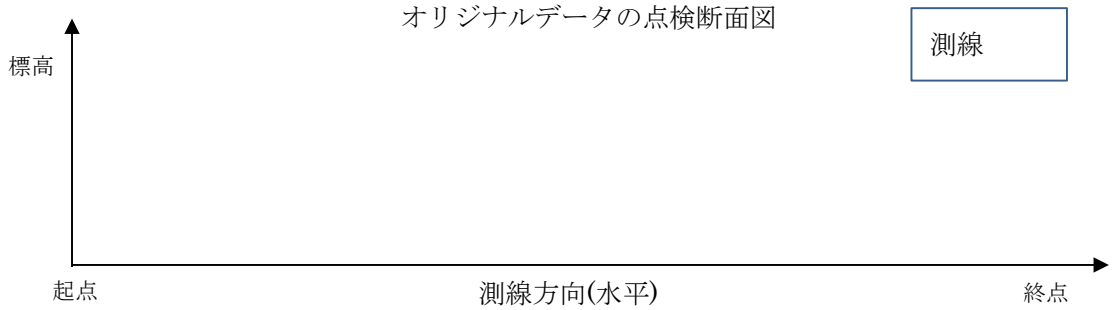
地区名		作業者	
		点検者	
点検測量手法		要求仕様 制限値	標高較差（ΔH）

番号	箇所番号	起点からの距離（m）	点検測量結果の標高(h) ①	オリジナルデータの標高(H) ②	較差 ΔH (②-①)	合否
1	1					
	2					
	3					
	4					
2	1					
	2					
	3					
	4					
較差の平均						
較差のＲＭＳ誤差 $=\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$						

注.　点検箇所及び断面箇所は、調整点・検証点・コース間点検箇所配点図に記入する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

オリジナルデータの点検断面図



様式第１－２６

解析結果 精度管理表①（車載写真レーザ測量）

作　業　名		システム名		計画機関名		主任技術者	
地　区　名		取得年月日		作業機関名		点　検　者	
走行路線名		キネマティック解析（使用ソフト）		仰角マスク　　度	除外された GNSSデータ数	最適軌跡解析（使用ソフト）	
取得路線数		使用した固定局	1）	2）	3）	最大連続除外数	

取得路線	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均（上段） 最少（下段）	DOPの 平均値(上段)及び 最大値(下段)	往復差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）(m)			解の品質基準				位置 標準偏差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）(m)			位置 標準偏差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）(m)			姿勢 標準偏差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）(度)		
				PDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z

注．本様式は、Loosely Coupled方式の場合に適用する。

用紙の大きさはA4判とする。

様式第１－２６－１

解析結果 精度管理表②（車載写真レーザ測量）

作　業　名		システム名		計画機関名		主任技術者	
地　区　名		取得年月日		作業機関名		点　検　者	
走行路線名		最適軌跡解析（使用ソフト）				仰角マスク	度
取得路線数		使用した固定局	1）reference point	2）	3）	4）	5）	6）

取得路線	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均(上段) 最少(下段)	DOPの 平均値(上段)及び 最大値(下段)	往復差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			解の品質基準				位置 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			姿勢 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(度)		
				PDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z

注．本様式は、Tightly Coupled方式の場合に適用する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２７

調整点設置（単点観測法）精度管理表

セット間較差許容範囲
⊿X（⊿N）、⊿Y（⊿E）＝　　m

作業名		計画機関名		主任技術者	
地区名		作業機関名		点　検　者	

観測点 番号　名称	座標	１セット (m)	２セット (m)	セット間 較差（m）	平均値 (m)	備考
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					

注．セット間較差の許容範囲は、X、Y座標の比較とする。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２８

調整処理 精度管理表（点群データ補正）

作業名		走行路線名		計画機関名		主任技術者	
地区名		システム名		作業機関名		点　検　者	

No.	点名	調整点			補正座標			差				調整点の用途	備考
		X	Y	H	X	Y	H	dx	dy	dxy	dh		
												検証	
												調整	
												検証	

位置図			
	点数		
	最大値		
	最小値		
	平均値		
	RMS 誤差		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－２９

図化用データ点検　精度管理表

作業名		走行路線名		計画機関名		主任技術者	
地区名		システム名		作業機関名		点　検　者	

No.	点 名	調 整 点			計測座標（オリジナル）			差				調整点の用途	備 考
		X	Y	H	X	Y	H	dx	dy	dxy	dh		
												検証・調整	

位置図				
	点　　数			
	最　大　値			
	最　小　値			
	平　均　値			
	RMS 誤差			

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３０

合成結果　精度管理表

世界測地系（測地成果○○○○）

作業名		走行路線名		計画機関名		主任技術者	
地区名		システム名		作業機関名		点　検　者	

No.	特徴点座標			ファイル名（1）			ファイル名（2）			ファイル名（3）			ファイル名（4）			備考
	X	Y	Z	dx	dy	dz	dx	dy	dz	dx	dy	dz	dx	dy	dz	

注１．特徴点座標には、全ファイルを座標変換して合成する場合には合成結果を
　　特定のファイルを基準にして合成する場合には特定ファイルでの座標を記載する。
２．合成の基準となったファイルの残差は０となる。
３．許容範囲は１画素。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３１

GNSS／IMU解析結果精度管理表①（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量／UAVレーザ測量）

作業名又は地区名		計測年月日		使用機器		計画機関名		主任技術者	
		対地高度（m）		使用カメラ		作業機関名		点　検　者	
		キネマティック解析（使用ソフト）			仰角マスク	度	除外された GNSSデータ数		最適軌跡解析（使用ソフト）
コース数		使用した固定局	1）	2）	3）		最大連続除外数		

コース番号	計測高度（m）	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均（上段） 最少（下段）	DOPの 平均値(上段)及び 最大値(下段)	往復差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）（m）			解の品質基準				位置 標準偏差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）（m）			位置 標準偏差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）（m）			姿勢 標準偏差の 平均値（上段）及び 最大値（下段）（度）		
					PDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z

作業者		社内検査期間	人日	オフセット・ボアサイト値	オフセット REF→GNSS	dx=	dy=	dz=	オフセット REF→IMU	dx=	dy=	dz=	ボアサイト REF→IMU	Tx=	Ty=	Tz=

注１．本様式は、Loosely Coupled方式の場合に適用する。

２．ＵＡＶレーザ測量の場合の計測高度は、対地高度（m）とする。

用紙の大きさはA4判とする。

様式第１－３１－１

GNSS／IMU解析結果精度管理表②（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量／UAVレーザ測量）

作業名又は地区名	計測年月日		使用機器		計画機関名		主任技術者	
	対地高度(m)		使用カメラ		作業機関名		点 検 者	
	最適軌跡解析(使用ソフト)						仰角マスク	度
コース数		使用した固定局	1)	2)	3)	4)	5)	6)

コース番号	計測高度(m)※	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均(上段) 最少(下段)	DOPの 平均値(上段)及び 最大値(下段)	往復差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			解の品質基準				位置 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			姿勢 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(度)		
					PDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z

作業者		社内検査期間	人日	オフセット・ボアサイト値	オフセット REF→GNSS	dx=	dy=	dz=	オフセット REF→IMU	dx=	dy=	dz=	ボアサイト REF→IMU	Tx=	Ty=	Tz=

注１．本様式は、Tightly Coupled方式の場合に適用する。

２．ＵＡＶレーザ測量の場合の計測高度は、対地高度（m）とする。

用紙の大きさはA4判とする。

様式第１－３２

グラウンドデータ作成作業精度管理表

作業名又は 地区名		作 業 量	ｋｍ^2	作業機関名	
				主任技術者	
				点　検　者	

フィルタリングの点検結果										備　　考
図　　名	交　通　施　設			建物等	小物体	水部等	植　生	低密度の 範　　囲	その他	
	道路施設等	鉄道施設等	移動物体							

注１．フィルタリングの点検結果は、フィルタイリング処理されていない対象物の数を図郭単位で記載する。
　２．精度管理表は、任意の作業単位で作成する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３３

グリッドデータ作成作業精度管理表

作業名又は 地区名		作業量	ｋ㎡	作業機関名	
				主任技術者	
				点　検　者	

グリッドデータ作成作業の点検結果					備　　考
図　　名	標高値の誤り	グリッドの不備	属性データの不備	接合の不備	

注１．点検結果は、図郭単位で整理する。
　２．精度管理表は、任意の作業単位で作成する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３４

三次元点群データファイル精度管理表

作業名又は地区名		作業量	ｋ㎡	作業機関名	
地図情報レベル2500図名				主任技術者	
				点　検　者	

三次元点群データファイル作成作業の点検記録								備　　考
項　目	ポイント図形ファイル構造の良否	ポイント属性ファイル構造の良否	ヘッダフォーマットの良否	テキストフォーマットの良否	ポイント図形ファイル構造の良否	ポイント属性ファイル構造の良否	ポリゴン図形ファイル構造の良否	
オリジナルデータ								
グラウンドデータ								
グリッドデータ								
水部ポリゴンデータ								

注．点検記録は、不良箇所の数を記載する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３５

断面図データ作成作業精度管理表

作業名又は 地区名		作 業 量	ｋｍ^2	作業機関名	
				主任技術者	
				点　検　者	

断面図データ作成作業の点検結果								備　　考
測 線 番 号	ズレ	脱落	誤記	測 線 番 号	ズレ	脱落	誤記	

注１．ズレ欄は、現地測量（縦断測量又は横断測量を標準）により作成した断面図とのズレの有無について記載する
（点検数量は、計画機関の指示による）。

２．脱落欄は、主要な構造物等の脱落の有無について記載する。

３．誤記欄は、誤記の有無について記載する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

応　用　測　量

路 線 測 量

仮ＢＭ設置測量精度管理表・・水準測量に準ずる
詳細測量精度管理表・・・・・縦断測量、地形測量及び写真測量に準ずる

様式第１－３６

条 件 点 測 量 精 度 管 理 表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

測　点	水平位置（距離）				摘　要	測　点	水平位置（距離）				摘　要
	計算値	測定値	較　差	許容範囲			計算値	測定値	較　差	許容範囲	

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３７

ＩＰの設置測量精度管理表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

測　点	水平位置（距離）				摘　要	測　点	水平位置（距離）				摘　要
	計算値	測定値	較　差	許容範囲			計算値	測定値	較　差	許容範囲	

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－３８

中 心 線 測 量 精 度 管 理 表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

測　点	水平位置（距離）				摘　要	測　点	水平位置（距離）				摘　要
	計算値	測定値	較　差	許容範囲			計算値	測定値	較　差	許容範囲	

用紙の大きさはＡ４判とする。

縦 断 測 量 精 度 管 理 表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

路線番号	距　　離	閉 合 差	許容範囲	摘　　要	路線番号	距　　離	閉 合 差	許容範囲	摘　　要	観測者
										主要機器の名称及び番号
										レベル
										標尺（箱尺）
										手簿、計算簿の誤りの有無
										再測率％

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－４０

横 断 測 量 精 度 管 理 表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

測　　点	水平位置（距離）								標　　高												摘　　要
	測定値		検測値		較　差		許容範囲		測定値		検測値		較　差		許容範囲						
	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側					
																					手簿、計算簿の誤りの有無
																					使用与点の異常の有無

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１－４１

用 地 幅 杭 設 置 測 量 精 度 管 理 表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

測　点	水平位置（距離）				摘　要	測　点	水平位置（距離）				摘　要
	計算値	測定値	較　差	許容範囲			計算値	測定値	較　差	許容範囲	

用紙の大きさはＡ４判とする。

河 川 測 量

距離標設置測量精度管理表・・・中心線測量に準ずる
水準基標測量精度管理表・・・・水準測量に準ずる
定期縦断測量精度管理表・・・・縦断測量に準ずる
定期横断測量精度管理表・・・・横断測量に準ずる
法線測量精度管理表・・・・・・中心線測量に準ずる
海浜測量精度管理表・・・・・・横断測量及び地形測量に準ずる

用 地 測 量

様式第１－４２

境 界 点 間 測 量 精 度 管 理 表

作業名		地　区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期　間	自　　至	作 業 量		主任技術者		その他	

測　点	水平位置（距離）				摘　要	測　点	水平位置（距離）				摘　要
	計算値	測定値	較　差	許容範囲			計算値	測定値	較　差	許容範囲	

注.　境界点間測量精度管理表は、境界点間測量観測簿を兼ねる。
　　用紙の大きさはＡ４判とする。

用地実測図データファイルの作成精度管理表

地　区　名	地図情報レベル	作業機関名	主任技術者	点　検　者

図名又は図面番号														
指摘 / 項目	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落
基準点位置														
基準点名称														
基準点の座標値														
中心点位置														
中心点名称														
境界点位置														
境界点名称														
境界標の種類														
用地取得線														
境界線・行政界														
境界方向線														
土地の所在														
地番														
符号・不動産番号														
境界辺長														
地目														
所有者等														
面積計算書　地番														
面積計算書　符号・不動産番号														
面積計算書　地目														
面積計算書　所有者等														
面積計算書　境界点名称														
面積計算書　境界点座標値														
面積計算書　境界点間距離														
面積計算書　面積														
面積計算書　一筆地実測地積														
面積計算書　公簿地積														
接合														
整飾														
図郭・方眼寸法														

注１．「図郭・方眼寸法」は規定寸法より 0.4 ㎜以上の差が出たものを記載する。
　２．該当項目に集計する場合は、用地実測図のデータ項目に従って集計する。
　３．画線の太さの相違及び図式の誤りは誤記に含める。
　４．ネットワーク型 RTK 法による場合は、電子基準点の名称を記載する。
　５．辺長の点検は、数値及び図示寸法とする。
　６．登記情報による地目はカッコ書きとする。
　７．計算書の最後に、残地を含め一筆地実測地積を合計する（該当地番のみ）
　８．図面に該当項目のないものは斜線で該当欄を消す。
　９．土地の分筆をした場合など不動産番号が確定していない場合は、地番に符号をつける。
　　（例えば 309-2A 309-2 は地番で A は符号）

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第１―４４

用地平面図データファイルの作成精度管理表

地　区　名	地図情報レベル	作業機関名	主任技術者	点　検　者

図名又は図面番号														
指摘／項目	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落
基準点位置														
基準点名称														
中心点位置														
中心点名称														
境界点位置														
境界点名称														
境界標の種類														
用地取得線														
境界線・行政界														
土地の所在														
地番														
符号・不動産番号														
地目														
所有者等														
公共用地名称														
建物　図示														
建物　＊家屋番号														
建物　＊種類														
建物　＊構造														
建物　＊床面積														
建物　＊所有者等														
＊恒久的地物														
＊引照データ														
構囲・小物体等														
接合														
整飾														
図郭・方眼寸法														

注１．「図郭・方眼寸法」は規定寸法より 0.4 ㎜以上の差が出たものを記載する。
２．該当項目に集計する場合は、用地平面図のデータ項目に従って集計する。
３．画線の太さの相違及び図式の誤りは誤記に含める。
４．登記情報による地目はカッコ書きとする。
５．図面に該当項目のないものは斜線で該当欄を消す。
６．＊印は計画機関の指示により、とくに記載する事項。
７．土地の分筆をした場合など不動産番号が確定していない場合は、地番に符号をつける。
（例えば 309-2A 309-2 は地番で A は符号）

用紙の大きさはＡ４判とする。

２．品　質　評　価　表

各測量共通

様式第２－１

品質評価表　総括表

製　品　名			
ライセンス		作成時期	
作　成　者		座　標　系	
領域又は地名		検査実施者	

番号	データ品質適用範囲	品質要求					品質評価結果（合否）
		完全性	論理一貫性	位置正確度	時間正確度	主題正確度	

【参考】

・空間データ製品仕様書作成マニュアル　国土地理院

・JMP2.0　仕様書　国土地理院

・品質の要求、評価及び報告のための規則　　国土地理院

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第２－２

品質評価表　個別表

データ品質適用範囲				
品質要素		品質要求	品質評価方法	品質評価結果
完全性	過剰			
	漏れ			
論　理 一貫性	書式一貫性			
	概念一貫性			
	定義域一貫性			
	位相一貫性			
位　置 正確度	絶対又は外部 正確度			
	相対又は内部 正確度			
	ｸﾞﾘｯﾄﾞﾃﾞｰﾀ位置 正確度			
時　間 正確度	時間測定正確度			
	時間一貫性			
	時間妥当性			
主　題 正確度	分類の正しさ			
	非定量的属性の 正しさ			
	定量的属性の 正確度			

記載要領

１．データ品質適用範囲は、品質評価の対象とするデータの内容又は範囲を記述する。
（地物の名称等データの特性や空間的な範囲、時間範囲を指定する。）

２．品質要求は、製品仕様書に記述されている品質要件の概要を記述する。

３．品質評価方法は、製品仕様書に記述されている品質評価方法の概要を記述する。

４．品質評価結果は、品質評価方法に基づいた評価結果を記述する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

３．成　果　等

基 準 点 測 量

ＧＮＳＳ標高測量の成果表・・基準点成果表 その１を準用する

様式第３－１

基 準 点 成 果 表　そ の １

世界測地系（測地成果○○○○）
ジオイド・モデル○○○○ Ver.○
調製　　年　　月　　日

基 準 点 成 果 表

（AREA　　）

B　　X
L　　Y

N　　H

柱石長
縮尺係数

視準点の名称		平均方向角		距　　離		備　　考
				m		
埋標形式	地　上	地　下	屋　上	標　識 番　号	標　石 金属標	

（計画機関名：　　）

注１．直接水準測量で標高決定されている場合、標高右隣に「(直接水準による)」と記載する。
２．ＧＮＳＳ標高測量は、「基準点成果表」を「３級水準点成果表」と記載する。
３．ＧＮＳＳ標高測量は、標高右隣に「(ＧＮＳＳ標高測量による)」と記載する。
用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２

基 準 点 成 果 表　そ の ２

世界測地系（測地成果◯◯◯◯）
ジオイド・モデル◯◯◯◯ Ver.◯
等級：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　調製　　　年　　　月　　　日

点の番号	X	Y	辺　長	方　向　角	標　高
			S	T	H
	m .	m .	m .	°　′　″ —　—	m .
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.	.	—　—	.
	.	.			.

座標系：　　　　　　　縮尺係数：　　　　　　　　　網平均計算の種類：

（計画機関名：　　　　　　　　　　）

注．号線（１）より順に記載し、号線が変わるごとに１行あけて次の号線を記載する。
　用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－３

点 の 記

ふりがな 点名		1/20 万図名	1/2.5 万図名	
選点番号	第　　号	埋標形式	（保護石　　個）	
標識番号	第　　号		柱石長	
所在地				
			地目	
所有者				
選点			選点者	
設置			設置者	
観測			観測者	
自動車到達地点				
歩道状況				
徒歩時間（距離）				
点周囲の状況				
履歴（1）				
履歴（2）				
備考			アンテナ高　m	

要　図　　縮尺：1/

N

（計画機関名：　　）

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４

水 準 測 量 観 測 成 果 表

自　　　　　至　　　　　観測路線番号

観測者	1/50,000 図 名	所 在 地			標尺番号	観測月日	水準点番号	距 離	測点数	水 準 差			観測の標高	補 正 数	結 果	備 考
		県	郡 市	町 村						一回	二回	標 尺 補正数				

用紙の大きさはＡ３判とする。

様式第３－５

地盤沈下調査水準測量成果表（変動計算簿）

世界測地系（測地成果○○○○）

観測の基準日　　年　　月　　日

地　区	路　線　番　号 水 準 点 番 号	距　離	結　果 Ⅰ	旧年度成果 Ⅱ	変 動 量 Ⅰ－Ⅱ	備　考

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－６

水準点の記

標識番号		２０万分の１図名	
		2.5 万分の１図名	
所在地			
		地目	
所有者			
標識の種類		埋設法	（保護石　　個）
選点		選点者	
設置		設置者	
観測		観測者	
旧埋設			
周辺の目標			
その他			
隣接点との距離	（　　）　（　　）　（　　） km　　km ．　　．		
備考	（　　現在）		

N

（計画機関名：　　）

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－７

成果数値データファイル標準様式

成果数値データファイルの作成は、測量成果電子納品要領の附属資料 3 成果表数値フォーマットを準用する。

様式第３－８

基 準 点 現 況 調 査 報 告 書

作　業　名

自：　　年　　月　　日

調査年月日　　日間　　作業機関名

至：　　年　　月　　日　　調　査　者

1/2.5 万 図名	級 種類	番号	名称 （番号）	所在地 （市町村名）	現況区分	現況地目	備考

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－９

測　量　標　設　置　位　置　通　知　書

点			所　在　地	地目	標　識		設置年月日	備　考
級	番　号	名　称			種　類	番　号		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－１０

測　量　標　新　旧　位　置　明　細　書

作業区分	級種別	番号・名称	新 旧	所在地	地目	敷地面積	復旧を行った理由	設置年月日	備考
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						

注．作業区分欄には移転、改埋、再設または廃棄の区分を記載する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

地形測量及び写真測量

様式第３－１１

標　定　点　成　果　表

世界測地系（測地成果○○○○）
ジオイド・モデル○○○○Ver.○

座標系：　　調製　　年　　月　　日

点の番号	緯度	経度	X	Y	標高
	B	L			H
	°　′　″	°　′　″	m	m	m
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.
	.	.	.	.	.

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－１２

標定点明細表

世界測地系（測地成果○○○○）
ジオイド・モデル○○○○ Ver.○

<table>
<tr><td colspan="2">等級点名</td><td></td><td colspan="2">1/2.5 万図名</td><td></td><td>作業者</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">標識の種類</td><td rowspan="2">チェッカ
レトロリフレクタ
スフィア
コーナキューブ
その他</td><td rowspan="2">標識点</td><td>標石より</td><td>m
.</td><td>点検者</td><td></td></tr>
<tr><td>地面より</td><td>m
.</td><td>設置年月日</td><td>年　月　日</td></tr>
<tr><td colspan="2">座標系</td><td colspan="2">X・N</td><td colspan="2">Y・E</td><td colspan="2">H</td></tr>
<tr><td rowspan="3">点の座標</td><td>本　点</td><td colspan="2">m
,　,　.</td><td colspan="2">m
,　,　.</td><td colspan="2">m
.</td></tr>
<tr><td>偏心点</td><td colspan="2">m
,　,　.</td><td colspan="2">m
,　,　.</td><td colspan="2">m
.</td></tr>
<tr><td>予備点</td><td colspan="2">m
,　,　.</td><td colspan="2">m
,　,　.</td><td colspan="2">m
.</td></tr>
<tr><td colspan="4">点付近見取り図</td><td colspan="4">地上写真</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

用紙の大きさはＡ４判とする。

カメラキャリブレーション実施記録簿（数値地形図作成）

地区名 地方名		カメラ キャリブレーション 実施年月日	撮影年月日		作業機関名	主任技術者	
						作業実施者	

カメラ	名称		
	シリアル番号	No.	
	画素数	pixel × pixel	
	センササイズ	mm × mm	－
	1画素あたりの大きさ	μm	

レンズ	名称	
	シリアル番号	No.
	焦点距離	mm
	画角	°

カメラキャリブレーションに使用したソフトウェア	

補正モデル式

$$\Delta x = x \cdot {}^{dr}/_{r} + p_1 \cdot (r^2 + 2x^2) + 2 \cdot p_2 \cdot x \cdot y$$

$$\Delta y = y \cdot {}^{dr}/_{r} + p_2 \cdot (r^2 + 2y^2) + 2 \cdot p_1 \cdot x \cdot y$$

$$(dr = k_1 \cdot r^3 + k_2 \cdot r^5 + k_3 \cdot r^7,\ \ r = \sqrt{x^2 + y^2})$$

パラメータ	記号	値	
焦点距離	f		mm
主点位置のズレ	x_p		mm
	y_p		mm
放射方向歪み係数	k_1		
	k_2		
	k_3		
接線方向歪み係数	p_1		
	p_2		
画像座標の残差(RMS)			pixel

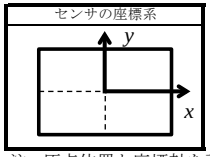
注 1. パラメータ欄には歪み補正の名称を記載する。
接線方向歪みの補正を行っていない場合は接線方向歪み係数欄を斜線にて削除する。
2. 記号欄には補正モデル式に記した補正項の記号を記載する。

用紙の大きさはA4判とする。

放射方向歪み量　dr（μm）

距離r（mm）	歪み量
最大（μm）	

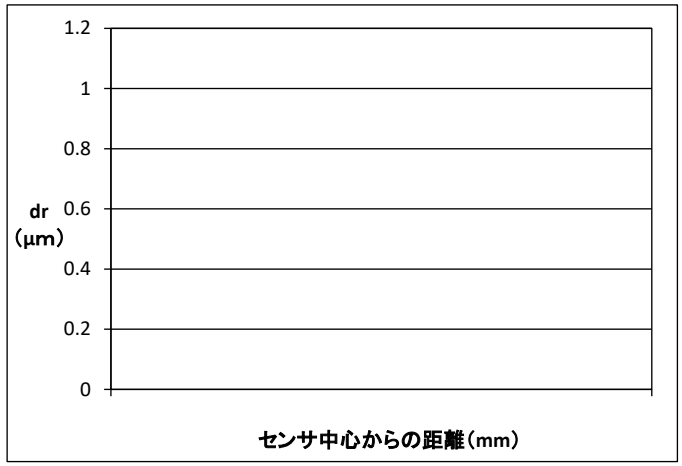
センサの座標系



注. 原点位置と座標軸を記載する。

接線方向最大歪み量　（μm）

歪み曲線



歪 み 図

歪み補正の名称	放射方向歪み+接線方向歪み

注 1. 補正前と歪み補正後を重ね合わせた図を掲載する。
2. 放射方向歪みに関する図と接線方向歪みに関する図の掲載を原則とする。

様式第３－１４

対空標識点明細表

世界測地系（測地成果○○○○）

等級点名		1/2.5 万図名			作業者	
標識の様式	A B C D E 構	標識点	標石より 偏心杭より	m ・ ・	点検者	
標識の色	白		地面より	m ・	設置年月日	年 月 日
座標系		X ・ N		Y ・ E		H
点の座標	本点	m , , .		m , , .		m .
	偏心点	, , .		, , .		.
	予備点	, , .		, , .		.
点付近見取図				地上写真		
N						

北
↑

C －No.　　C －No.

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第3－15

デジタル航空カメラ撮影記録簿

地区名		作業機関名		撮影士		操縦士		整備士	
撮影年月日	年　月　日	基地		機体		カメラ	f:　　mm	離　陸 着　陸	時　分 時　分

撮影高度	ft A　m	ft B　m	基地標高 基準面標高	 A　m	m B　m	記録処理ユニット	飛行時間	時　分
地上画素寸法	cm	cm	計器高度	m	m	センサーユニット	計器速度	kt/H

気　象	天気		気流		風向　° 風速　kt	煙霧		気温	ft　℃ ft　℃	地上(離)　℃ 地上(着)　℃	気圧	離陸 着陸	hPa hPa

ｺｰｽNo.	開始時刻	終了時刻	露出	絞り	修正角	数値写真No.	枚数	進行方向	摘要	GNSS/IMU		GNSS/IMU初期化方法	
						～				(撮影区域全体を表示する)			
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
			-						合　計				
			-						枚				

注1．撮影されたコースは、中間検査後撮影略図のコースを赤線で表示する。
　2．採用時にA，Bコースと分割して採用されたときは、コースNo.欄に「○A，○B」と記載し、撮影略図にABコースの範囲を明確に表示する。
　3．基準面を異にして撮影する場合は、A，Bに区別する。

用紙の大きさはA4判とする。

様式第３－１６

デジタル航空カメラ撮影諸元

撮影地区名		作業機関名		主任技術者	
地上画素寸法	cm	使用カメラ（製造番号）			
メディアラベル名					

番号	コース名	数値写真ファイル名	数量	撮影年月日	備考
1		～			
2		～			
3		～			
4		～			
5		～			
6		～			
7		～			
8		～			
9		～			
10		～			
11		～			
12		～			
13		～			
14		～			
15		～			
16		～			
17		～			
18		～			
19		～			
20		～			
21		～			
22		～			
23		～			
24		～			
25		～			
26		～			
27		～			
28		～			
29		～			
30		～			

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－１７

固 定 局 観 測 記 録 簿

作 業 名		GNSS 受信機	
観測日時		作業開始時間	
観 測 者		作業終了時間	
観測地点名		備考	
アンテナ高	m		

観測 NO.	時　刻	PDOP	衛星数	メモリ残	ﾊﾞｯﾃﾘ残	天候	備考

注１．観測状況は 10～15 分間隔で記入すること。

２．PDOP、衛星数、降雨等状況が変化した場合も記入すること。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－１８

空中写真数値化　作業記録簿・点検記録簿

地　区　名		作業機関名		作　業　者	
数値化年月日		撮影縮尺		航空カメラ	
使用スキャナ装置		スキャナ点検証明書取得年月日		点検機関名	

点検項目

項　目	内容	良否	備　考
ランプ	スキャナランプ切れ・照射不足がないかを確認する		
電源	スキャナの電源部分に故障がないかを確認する		
システム	数値化ソフトウェアが正常に動作することを確認する		
動作異常	スキャナ動作時における動作異常がないことを確認する		
テストスキャン	数値化結果に幾何精度・輝度値に異常がないかを確認する		

コースNo.	開始時刻	終了時刻	数値化寸法	ビット数	画像形式	写真番号		枚数	飛行方向	摘要
								枚		合計
								枚		枚

（撮影地域全域を表示する）

N

注１．数値化寸法の単位は mm とする。
　２．ビット数が「8」は白黒、「24」はカラーを意味する。
用紙の大きさはＡ４判とする。

三次元点群測量

様式第３－１９

標定点・地上レーザスキャナ配置図

作　業　名		レーザスキャナ名		計画機関名		主任技術者	
計測年月日		機　器　番　号		作業機関名		点　検　者	

器　械　点　名				
器　械　高				
照射数（点／秒）				
計測範囲（水平）	deg	deg	deg	deg
計測範囲（鉛直）	deg	deg	deg	deg
最小計測間隔（水平）	deg	deg	deg	deg
最小計測間隔（鉛直）	deg	deg	deg	deg

標定点・地上レーザスキャナ配置図

注.　配置図には、記号と名称（例：基準点：△123　標定点：○1　器械点:☆1）を記載する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２０

キャリブレーション記録簿（ＵＡＶレーザシステム点検記録）

作　業　名		UAVレーザ 機材名		年　　月　　日	
				点検者	
キャリブレーションサイト名					

機器	機器名	機器番号
UAV		
IMU		
GNSS		
レーザスキャナ		

レバーアーム値（REF→IMU）	X		Y		Z	

離　陸　時　間		計　測　開　始	
着　陸　時　間		計　測　終　了	

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (m)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備考
C-							

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (m)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備考
C-							

ヘディングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (m)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備考
C-							

標高値（測距）キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (m)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正前の較差 (m)	備考
C-							

キャリブレーションサイトの設置状況及び飛行状況

キャリブレーション後の標高差
cm

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２１

ＵＡＶレーザシステム精度試験記録簿

作　業　名		UAVレーザ 機材名		年　　月　　日	
				点検者	
キャリブレーションサイト名					

機器	機器名	機器番号
UAV		
IMU		
GNSS		
レーザスキャナ		

離　陸　時　間	時　分	計　測　開　始	時　分
着　陸　時　間	時　分	計　測　終　了	時　分

試験用 基準点 番号	試験用基準点			UAVレーザ機材の計測点					
							試験用基準点の標高との比較		
	X	Y	標高	点数	標高の 平均値	標高の 標準偏差	較差の 最大値	較差の 平均値	RMS誤差 $=\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$

注、較差は、「計測点標高 － 基準点標高」とする。

UAVレーザ計測点の較差分布(各試験用基準点標高との較差)

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２２

飛行・計測諸元計画表

地区名		作業機関名	
		主任技術者	

項　　目	パラメータ設定値	備　　考
対　地　高　度	m	
計　測　高　度	m	
対　地　速　度	km/h	
コース数	コース	
コース間重複度	%	
パルスレート	Hz	
スキャン角度	度	
スキャンレート	Hz	
ビーム径（地上部）	cm	
パルスモード		
飛行方向計測点間距離	m	
飛行直角方向計測点間距離	m	
使用する固定局		

注１．計画コース図を添付する。（作業エリアに固定局を設置する場合は、コース図に固定局の場所を明示する。）
　２．固定局に電子基準点を使用する場合は、計測範囲と電子基準点の位置関係を示した図を別途添付する。
用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２３

調整点・検証点・コース間点検箇所　配点図

作業年月日		地区名		作業機関名	

注１．一覧図は計測範囲に適した縮尺の地形図を使用する。
　２．配点図に、計測範囲、調整点を逆三角形、検証点を正三角形、コース間点検箇所を円で明示する。
　３．また、その名称を記載する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２４

ＵＡＶ レ ー ザ 計 測 記 録 簿

地 区 名		作業機関名		現場責任者		操縦士	
計測年月日		離着陸場所				離陸時間	時　分
対地高度		対地速度		天気	気温	風速	着陸時間	時　分
							計測機器名	

コース	開始時間	終了時間	コース	開始時間	終了時間

撮　影　略　図

注１．コース番号は、連続の場合省略してもよい。開始時間、終了時間は最初と終了で途中のコースは省いてよい。
　２．撮影略図には計測範囲と飛行コースを記載する。
用紙の大きさはＡ４判とする

様式第３－２５

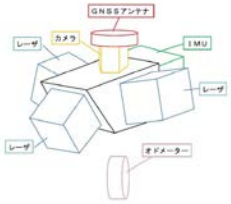
オリジナルデータ均一度点検表

地区名			作業者	
			点検者	
点名			調整点の標高値	H= m
No.	X	Y	オリジナルデータの標高(Z)	備　考
点数（n）				
平均値 ($\bar{Z}$)				
最大値				
最小値				
標準偏差＝ $\sqrt{\frac{\Sigma(Z-\bar{Z})^2}{n}}$				

用紙の大きさはＡ４判とする。

キャリブレーション記録簿（車載写真レーザシステム）（その１）

システム名		実施年月日	
実施機関名		実施者	
実施場所		固定局	
機器配置図			



カメラ※カメラ搭載台数分この表を記載する。				
配置位置	製品名	焦点距離	画素数	記録頻度

オフセット値		キャリブレーション値	
測定年月日		校正年月日	
補正値　X		補正量　ロール	
補正量　Y		補正量　ピッチ	
補正量　Z		補正量　ヨー	

キャリブレーション記録簿（車載写真レーザシステム）（その２）

レーザ※レーザの搭載台数分この表を記載する。				
配置位置	製品名	照射数	走査回数	走査角

オフセット値		キャリブレーション値	
測定年月日		校正年月日	
補正値　X		補正量　ロール	
補正量　Y		補正量　ピッチ	
補正量　Z		補正量　ヨー	
		点検者	

注１．キャリブレーション機器は搭載台数分の表を作成し、最後に点検者を記載する。

２．キャリブレーション記録簿は、システム毎に書式や記載内容が変わる。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２７

調 整 点・検 証 点　明 細 表（車載写真レーザ測量）

世界測地系（測地成果○○○○）
ジオイド・モデル○○○○ Ver.○

地 区 名		設置年月日		作 業 者	
取得路線		1/2.5 万図名		点 検 者	

点　　名	座 標 系	X ・ N	Y ・ E	H

地上写真（近景）

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－２８

移　動　取　得　計　画　図

地区名		走行路線名		作業機関名		主任技術者	
作業予定	日時	年　　月　　時　　分～　　時　　分		最少衛星数		最大 DOP 値	

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３―２８―１

移　動　取　得　実　績　図

地区名		走行路線名		作業機関名		作業者	
取得年月日		取得時間				点検者	

用紙の大きさはＡ４判とする。

移　動　取　得　実　績　表

地区名		走行路線名		作業機関名		作業者	
取得年月日		取得時間				点検者	
取得路線名	路線長	開始時間	終了時間	天候	平均速度	最低速度	備考

用紙の大きさはＡ４判とする。

注．取得実績は図又は表として作成する。

様式第３－２９

キャリブレーション記録簿
（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量）

直接定位装置名：	点検年月日：　　年　　月　　日
所 有 機 関：	点 検 機 関：

レバーアーム測定値（実施日：　　年　　月　　日）

ＧＮＳＳ装置	X：	m	ＩＭＵ装置	X：	m
	Y：	m		Y：	m
	Z：	m		Z：	m

ＩＭＵ取付概略ミスアライメント角度

Roll ：　　deg

Pitch ：　　deg

Yaw ：　　deg

キャリブレーション

キャリブレーションサイト：　　地区

キャリブレーション方法 ：　　方式（基準点：　　点）

撮 影 諸 元

使用航空カメラ：　　焦点距離：　　mm

撮影年月日：　　年　　月　　日

撮影縮尺：　　コース数：　　写真枚数（モデル数）：　　枚（　　モデル）

地上ＧＮＳＳ基準局：

概 略 撮 影 図

キャリブレーション結果 補正量(arcmin)　　標準偏差(arcmin) tx:　　sdx： ty:　　sdy： tz:　　sdz：	合 否 判 定 良 ・ 否
	点 検 者：

※ 判定基準：キャリブレーション結果の標準偏差が 0.5arcmin（60arcmin＝1deg）以内であること。

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－３０

航空レーザ測量システム点検記録簿

作 業 名		機　体		年　月　日	
				点検者	
キャリブレーションサイト名					
機器名		番号			
離 陸 時 間	時　分	計 測 開 始	時　分		
着 陸 時 間	時　分	計 測 終 了	時　分		

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	ＦＯＶ (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補 正 値 (角度)	備　考
Ｃ－							

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	ＦＯＶ (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補 正 値 (角度)	備　考
Ｃ－							

ヘディングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	ＦＯＶ (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補 正 値 (角度)	備　考
Ｃ－							

横縮尺キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	ＦＯＶ (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補 正 値	備　考
Ｃ－							

標高値（測距）キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	ＦＯＶ (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補 正 値 (cm)	備　考
Ｃ－							

キャリブレーション後の標高差
cm

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－３１

航空レーザ測深システム点検記録簿

作業名		機体		年　月　日
				点検者
キャリブレーションサイト名				
機器名		番号		

緑レーザ

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備　考

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備　考

ヘディングキャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備　考

標高差(測距)キャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (cm)	備　考

キャリブレーション後の標高差
cm

近赤外レーザ

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備　考

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備　考

ヘディングキャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備　考

標高差(測距)キャリブレーション

コース名	対地速度 (Kt)	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (cm)	備　考

キャリブレーション後の標高差
cm

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－３２

固 定 局 明 細 表

世界測地系（測地成果○○○○）
ジオイド・モデル○○○○　Ver.○

点　　名		1/2.5 万地形図名		観測者	
観測年月日		標 識 種 類		点検者	
所　在　地					
所　有　者	連絡先				
座　標　系	平面直角座標　　系				
座　　標	X	m	標　　高	m	
	Y	m	ジオイド高	m	
経　緯　度	B				
	L				
電子基準点番号					
ＧＮＳＳ機種			解析ソフト名		
観測レート	秒		仰　　角	°以上	
機 械 高	m		観 測 時 間	h　　m	
ＤＯＰ			衛　星　数	衛星	

平　面　位　置　図	観　測　写　真

注．電子基準点を利用した場合は作成不要とする。
用紙の大きさはＡ４判とする。

航空レーザ計測記録簿／航空レーザ測深記録簿

地区名		作業機関名		計測士		操縦士	
計測年月日		基　地		機　体		離陸時間	時　分
高　度		基地標高		速　度		着陸時間	時　分
		基準面				計測機器名	No.

気　象	天気		気流		風向	°	風速		気温	℃

コース	開始時間	終了時間	偏流角	コース	開始時間	終了時間	偏流角	撮影略図

注１．コース番号は、連続の場合は省略してもよい。開始時間、終了時間は最初と終了で途中のコースは省略できる。
　２．偏流角も適宜省略できる。

用紙の大きさはＡ４判とする。

調整点・検証点　明細表
（航空レーザ測量／航空レーザ測深測量／ＵＡＶレーザ測量）

世界測地系（測地成果○○○○）
ジオイド・モデル○○○○　Ver.○

地　区　名		1/2.5 万地形図名		作 業 者	
作業年月日		座　標　系		点 検 者	

点　　名	X　・　N	Y　・　E	H

１／2.5 万見取図	地　上　写　真

計測点図

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－３５

点群データ点検表

世界測地系（測地成果○○○○）

地 区 名		作 業 者	
		点 検 者	
点　　名		実 測 値　　H ＝　　m	

No.	X	Y	Z	ΔZ 較差(H - Z)	備　　考

点数(n)		
平均値（$\overline{\Delta Z}$）		
最大値		
最小値		
RMS 誤差＝$\sqrt{\frac{\Sigma(\Delta Z)^2}{n}}$		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－３６

調 整 点 調 査 表

世界測地系（測地成果○○○○）

地 区 名		作 業 者	
		点 検 者	

番号	点 名	水準結果	三次元計測データの平均	水準との差 ΔH	番 号	点 名	水準結果	三次元計測データの平均	水準との差 ΔH
1					11				
2					12				
3					13				
4					14				
5					15				
6					16				
7					17				
8					18				
9					19				
10					20				

	データ数	平均値(m)	最大値(m)	最小値(m)	最大値－最小値	ＲＭＳ誤差 $=\sqrt{\frac{\Sigma(\Delta H)^2}{n}}$
計測範囲全域の水準との差						

用紙の大きさはＡ４判とする。

欠 測 率 調 査 表（陸部／水部）

地 区 名					作 業 者		
					点 検 者		
図　名	欠測率%	図　名	欠測率%	図　名	欠測率%	図　名	欠測率%
全域平均		最　小		最　大			

注１．欠測率調査票は、陸部、水部に分けて作成する。
　２．表題の「陸部／水部」は、対象としたもの以外を削除する。
　　用紙の大きさはＡ４判とする。

調　整　点　残　差　表

地区名		作業機関名			
		作 業 者		点 検 者	

点 名	実　測　値			調　整　前			調整後	較差	備　　考
	X	Y	H	X	Y	H	H	(m)	

＊　電子計算機タイプの場合は、その用紙を使用できる。 ただし、上記の内容を満足するものとする。	調整量(m)		
	最 小 値		
	最 大 値		
	平 均 値		
	標準偏差		
	RMS 誤差		

用紙の大きさはＡ４判とする。

既存データ検証結果表

地　区　名（A）		作　業　者	
隣接地区名（B）		点　検　者	

図　　名	計測点数		計測点標高平均値		較　　差	備　　考
	Ａ地区	Ｂ地区	Ａ地区	Ｂ地区		
＊ 本地区をＡ地区とし、隣接地区をＢ地区とする。				最 小 値		
				最 大 値		
				平 均 値		
				RMS誤差		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４０

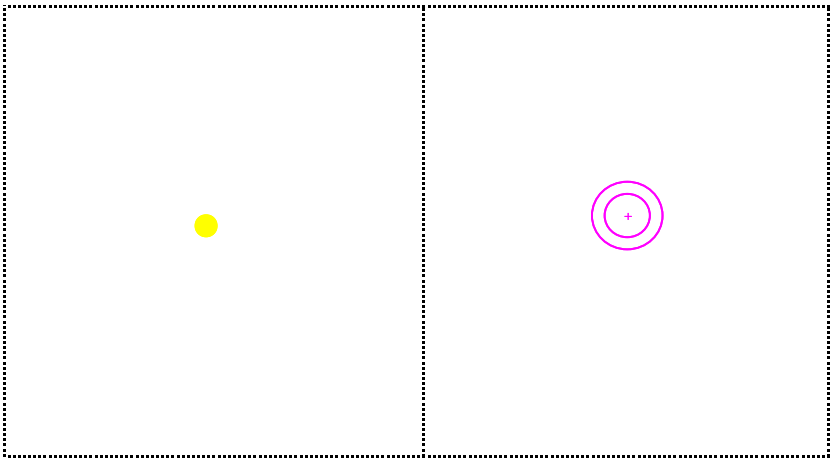
水 質 調 査 記 録 簿

世界測地系(測地成果〇〇〇〇)
ジオイド・モデル〇〇〇〇Ver.〇

点　　名			河川名					作業者				
採水場所	点付近位置図No.		水質情報	透明度・着底			m	点検者				
				濁度			NTU					
				透視度			cm	調査年月日				
				浮遊物質量(SS)			mg/L	調査時間	～			
気象条件等	気温		天気		風向		風速		水温		水色	
座標系		X		Y		H		水質調査地点の測深値		近傍の最測深値		
水質調査測深位置		m		m		m		m		m		

点　付　近　位　置　図	遠 景 ・ 近 景 写 真	
	遠景	近景
	上流側	下流側

簡易オルソ画像　　北　　測深段彩図(凡例含む)



透明度の計測において白色盤の着底「有・無」を記録する。
水質調査地点の測深値は、着底「有・無」ともに調査地点の測深値を記録する。調査地点が欠測の場合は、欠測と記載する。
近傍の最測深値は、着底「有・無」ともに近傍で最も深い測深値を記録する。
採水場所で複数の層で調査をした場合は、層ごとに記録簿を作成する。

用紙の大きさはＡ４判とする。

応 用 測 量

様式第３－４１

縦断測量成果表

測　　点	単 距 離	追加距離	杭　　高	地 盤 高	備　　考
	m .	m .	m .	m .	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	
	.	.	.	.	

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４２

点　の　記

路線番号	点　番　号	標 識 の 種 類	路線番号	点　番　号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鋲、刻み			木杭、プラ杭、鋲、刻み
所在地			所在地		
要　　図			要　　図		

路線番号	点　番　号	標 識 の 種 類	路線番号	点　番　号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鋲、刻み			木杭、プラ杭、鋲、刻み
所在地			所在地		
要　　図			要　　図		

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４３

年　　月　　日

土 地 所 有 者　　住　所

電話番号

氏　名

隣接土地所有者　　住　所

氏　名

住　所

氏　名

住　所

氏　名

土　地　境　界　確　認　書

下記記載の土地の境界は、現地で立会いのうえ、相違ないことを確認しました。

都県　　市郡　　区　　町村

区分	大　字	字	地　番	地　目	登記簿地積	登 記 名 義 人	摘　　要
対							
	不動産番号						
象							
	不動産番号						
地	不動産番号						
隣							
	不動産番号						
	不動産番号						
接							
	不動産番号						
地	不動産番号						
	不動産番号						

注．土地所有者及び隣接土地所有者氏名には、本人の署名又は押印が必要。
用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４４

土　地　調　査　表

整理番号	

不動産登記簿				分割の部	用地		土地の登記記録調査	調査年月日		調査者	
表題部			甲区欄		符号	地積	法人登記簿又は商業登記簿調査				
所在地	都郡区 県市										
	町 大字字 村						権利者調査				
							現況調査				
					残地		課税評価格				
地番		地目			符号	地積	所有者以外の権利又は仮登記及び予告登記の調査				
不動産番号											
地積											
所有者			連絡先電話番号								
備考				現況調査	地目	地積					
権利者法人	登記簿又は商業登記簿調査										
				その他土地等の評価に必要な資料の調査							

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４５

建物の登記記録等調査表

調査年月日		調査者		整理番号	

１．建物の登記記録調査					不動産番号	
所在地	都　市　町 県　郡　区　村　大字　字　番地					
所有者	住所又は所在地					
	氏名又は法人・代表者氏名			生年月日		
				電話番号		
家屋番号	主家・付属の別	種類	構造	床面積	建築年次	備考
所有権以外の権利者に関する事項及び仮登記等の事項				法定代理人等		
２．立木の登記記録及びその他の登記簿調査						

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第３－４６

権　利　者　調　査　表

調　査 年月日		調査者		整理 番号	

土地に関する権利者 （被相続人又は法人）	住　　所 所　在　地		法定代理人又は保佐人の住所及び氏名	住　所	
	氏名又は名称 生 年 月 日			氏　名	
	本　籍　地		法人を代表する者の住所及び氏名	住　所	
	相続年月日			氏　名	

相続人の氏名	生 年 月 日 死 亡 年 月 日	被相続人との続柄	住　　所	本　　籍	相続分	摘　要	符　号

注１．「摘要」の欄には相続放棄、相続欠格などを記入のこと。
　２．相続系譜は別紙に作成すること。

用紙の大きさはＡ４判とする。

４．建　標　承　諾　書

様式第４－１

建　標　承　諾　書

年　　月　　日

殿

所有者　住所

管理者　氏名

	等　級	名　　称	標 識 番 号
基　準　点	級		

		俗　　称	地　　目
所在地			

上記　　地内に　　級　　点の標識を設置することを承諾する。

注１．この標識は○　　○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
２．なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
３．不要の文字は抹消すること。
４．管理者氏名には、本人の署名又は押印が必要。
用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第４－２

建　標　承　諾　書

年　　月　　日

殿

所有者　住所

管理者　氏名

	等　級	名　　称	標 識 番 号
水　準　点	級		

		俗　　称	地　　目
所在地			

上記　　地内に　　級　　点の標識を設置することを承諾する。

注１．この標識は○　　○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
２．なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
３．不要の文字は抹消すること。
４．管理者氏名には、本人の署名又は押印が必要。
用紙の大きさはＡ４判とする。

５．成果品要求仕様書及び成果品作業仕様書

様式第５－１

成果品要求仕様書（UAVレーザ測量）

１．作成する成果品の品目及び使用目的など

目的と用途	記入例	森林部の地形の把握によって、路網の計画をしたい。 そのために地形判読図や標高分布図が欲しいのでグリッドデータが必要。 樹高や立木の本数も把握するため、細かな三次元点群データが必要。
	記入	

２．データ作成範囲の情報

	項目		記入内容	記入	備考
計測地の状況	場所		概略の位置（住所等）		
	面積		概略の作業面積(㎡)		
			形状（○m×○m）		
	地形ほか		裸地、山地など		
	植生状況		森林、草地など		
	UAV飛行に関わる情報	環境面	航空法上の許可要否		
			隣接した第三者敷地		
			電波伝搬路		
		運用面	離発着場の確保		
			作業車両乗入れ		
	計測地内への第三者立入り		人、車両など		
	その他考えられる危険		気象条件、鳥獣有無、機体コンパスエラー		

３．最終成果品の詳細

品目	成果品	作成 注1	要求精度ほか			
			設定項目	要求仕様		備考
標準成果品	オリジナルデータ		要求精度	水平		
			(m)	標高		
			評価基準 注2	RMS誤差		
			要求点密度			
			(点/㎡)			
その他の成果品	グラウンドデータ		フィルタリング項目			
	グリッドデータ		格子間隔			
			(m)			
	等高線データ		等高線間隔			
			(m)			
	断面図データ		－			
	数値地形図データ		地図情報レベル			
	簡易写真地図データ		地上画素寸法			
			(cm)			
	その他					

注1. 作成する成果は○、最終成果は◎、作成しないものは×を記載。いずれの場合もオリジナルデータの作成は必須。

注2. 精度は調整点との較差を計算して求める。

５．欠測率

６．その他

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第５－２

成果品作業仕様書（UAVレーザ測量）

業務件名　　作成日

測量作業機関

１．使用するUAVレーザ測量システム

	機器	機器名	細目	仕様
UAVレーザ測量システム	GNSSアンテナ 受信機		観測間隔	
			受信周波	
	IMU		測位精度(m)	
			速度精度(m/sec)	
			姿勢精度（deg）	
			方位精度（deg）	
			出力レート	
	レーザスキャナ		計測精度	
			最大計測距離	
			パルスレート	
			スキャンレート	
			スキャン角度	
			ビーム拡散角	
			マルチパス	
	UAV機体		飛行可能時間	
			自動飛行機能	
			最大飛行対地高度	
			運行可能最大風速	
	最適軌跡解析 ソフトウェア			
	統合解析 ソフトウェア			

２．UAVレーザ計測に当たっての標準的な計測諸元

	項目	記入	備考
計測諸元	対地高度(m)		
	ビーム径（地上部）（cm）		
	コース間重複率		
	計測点間隔（飛行方向）（cm）		
	計測点間隔（飛行直交方向）（cm）		
	コース延伸距離(m)		

３．調整点等の設置場所、点数及び観測と点検測量の方法

	項目	記入	調整点の構造	設置点数	観測方法
精度検証作業	調整点 を用いた検証	水平位置と標高			
	点検測量 実施方法				

※計測計画図を添付する。

※計測計画図には計測範囲、計測コース、基準点配点位置を明示する。

※点検測量実施方法には以下を記載または実施計画図等を添付する。

方法	記載する内容
検証点の設置による点検	検証点の構造・設置点数・設置箇所・観測方法
UAVレーザ測量による点検	点検する飛行コースと点検範囲
横断測量による点検	横断測量の実施箇所
他の測量による三次元点群データによる点検	三次元データの測量方法・点検方法

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第５－３

成果品要求仕様書（車載写真レーザ測量）

1. 作成する成果品の品目及び使用目的など

目的と用途	記入例	○○国道における路面形状及び路面性状のデータ取得を行いたい。 そのためにオリジナルデータの他、路面周辺を含めた写真が必要。 路面性状は、亀裂等の状況把握のため細かな三次元点群データが必要。
	記入	

2. データ作成範囲の情報

	項目	記入内容		記入	備考
計測地の状況	場所	概略の位置（住所等）			
	面積／路線長	概略の作業面積(㎡)			
		概略の路線長(km)			
	地形ほか	裸地、市街地など			
	植生状況	樹林地、草地など			
	移動計測に関わる情報	運用面	交通規制の有無		
			第三者敷地の通過		
		その他			
	その他 考えられる危険	気象条件など			

3. 最終成果品の詳細

品目	成果品	作成 注1	要求精度ほか			
			設定項目	要求仕様		備考
標準成果品	オリジナルデータ		要求精度	水平		
			(m)	標高		
			評価基準 注2	RMS誤差		
			要求点密度			
			(点/㎡)			
その他の成果品	グラウンドデータ		フィルタリング項目			
	グリッドデータ		格子間隔			
			(m)			
	等高線データ		等高線間隔			
			(m)			
	断面図データ		－			
	数値地形図データ		地図情報レベル			
	写真データ		地上画素寸法			
			(cm)			
	その他					

注1. 作成する成果は○、最終成果は◎、作成しないものは×を記載。いずれの場合もオリジナルデータの作成は必須。

注2. 精度は調整点との較差を計算して求める。

5. 欠測率

6. その他

用紙の大きさはＡ４判とする。

様式第５－４

成果品作業仕様書（車載写真レーザ測量）

業務件名　　作成日

測量作業機関

１．車載写真レーザ測量に用いる車載写真レーザ測量システム

	機器	機器名	細目	仕様
車載写真レーザ測量システム	GNSSアンテナ 受信機		観測間隔	
			受信周波	
	IMU		測位精度(m)	
			速度精度(m/sec)	
			姿勢精度（deg）	
			方位精度（deg）	
			出力レート	
	レーザスキャナ		計測精度	
			最大計測距離	
			パルスレート	
			レーザ照射角	
			レーザ拡散角	
			マルチパス	
	距離計			
	最適軌跡解析 ソフトウェア			
	統合解析 ソフトウェア			

※距離計は適用の有無を記載

２．移動計測に当たっての標準的な計測諸元

	項目	記入	備考
計測諸元	パルスレート(kHz)		
	計測点間距離(cm)		
	計測速度(km/h)		
	計測距離(km)		

※移動計測速度が交通状況に基づく場合はその旨記載

３．調整点等の設置場所、点数及び観測と点検測量の方法

	項目	記入	調整点の構造	設置点数	観測方法
精度検証作業	調整点 を用いた検証	水平位置と標高			
	点検測量 実施方法				

※計測計画図を添付する。

※計測計画図には計測範囲、計測コース、基準点配点位置を明示する。

※点検測量実施方法には以下を記載または実施計画図等を添付する。

方法	記載する内容
検証点の設置による点検	検証点の設置点数・設置箇所・観測方法
車載写真レーザ測量による点検	点検するコースと点検範囲
横断測量による点検	横断測量の実施箇所
他の測量による三次元点群データによる点検	三次元データの測量方法・点検方法

用紙の大きさはＡ４判とする。

６．標準様式の記載における注意事項

標準様式の記載における注意事項

１．標準様式の記載に当たっては、各様式の「注」に留意すること。

２．「年」の記載は、以下の点に留意すること。

　年を西暦で記載するときは、４桁の年の数字で表記するものとし、元号を付して記載するときは当該元号又はその略号に年の数字を続けて表記するものとする。